2022 年 12 月 26 日 021 号

ミンガラバーMJET News Letter

mjet
13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com

日緬青年交流会
鴨川シーワールドと マザー牧場へ日帰りバスツアー

MJET は（一社）日本ミャンマー友好協会と共催して、10 月 23 日に「日緬青年交流会」を開催しました。

秋晴れの 23 日（日）、早朝 8 時に、日本とミャンマーの青年と筆者、計 9 名が新宿南口の都庁に集合し、「鴨川シーワールドとマザー牧場への日帰りバスツアー」に参加して楽しい 1 日を過ごしました。日本人は、MJET から石川学生部長と藤村会長が参加し、他に女子学生と男性会社員が参加。ミャンマー青年は会社員が 4 人と学生 1 人、計 5 人が参加しました。

バスに乗る時から、日本とミャンマーの青年が交流できるように座席を交互に組み合わせて座りました。最初に東京湾を横断するアクアラインの真ん中の休憩所「海ほたる」で休憩し、約 2 時間で「鴨川シーワールド」に到着。3 時間の滞在中に水族館で、ベルーガ、イガグリガニ、サカサクラゲ等の珍しい海の魚や川の魚を鑑賞し、ついで「イルカショウ」と「シャチショウ」を見ました。

イルカもシャチも実に良く訓練されていて、トレイナーの言うことをよく聞いて、次々にジャンプしたり、輪をくぐったり、飛び上がって上空の風船をくちばしで蹴ったり、素晴らしい芸を披露してくれました。

特にシャチはその大きな体を宙に飛ばして空中の風船を蹴ったり、大きなジャンプで水を観衆にかけたりして、大いに観衆をわかせました。

マザー牧場では、山の上の広々とした牧場にいろいろな動物たちが飼われていて、これも集団で訓練された演技を披露してくれました。とりわけ、興味深かったのが世界中から違った種類の羊たちが自分の名前がついた階段に並びおとなしくしていたことです。その場であっという間に羊の毛を刈る毛刈りの実演も見せてくれました。

毛刈りの時間は、わずか 7～8 分で羊の毛がバリカンで一気に刈り落とされました。これには、青年達も初めて見る光景で、あっと驚いていました。

今回の日帰りバスツアーは、ミャンマーと日本の青年の両方に好評でした。いろいろなお話しが出来たようです。是非、来年も続けたいと思います。

（藤村記）

ミンガラバーMJET News Letter
mjet
13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com

MJET 勉強会を開催

今年度の第３回の勉強会を開催しましたので概要を報告します。

第三回

日　時：9 月 24 日（土）：　午後 8 時～9 時半
場　所：ZOOM
トピック：「ミャンマーにおける BAJ の活動と展望」
講師：　新石正治　BAJ 事務局長
（https://www.baj-npo.org/about.html）
プログラム
20:00～20:05　開会
20:05～20:45　講演
20:45～21:30　質疑応答・自由討議
21:30　閉会

- 新石氏は、2013 年から 2015 年までミャンマー（マグエ）に駐在した経験がある。BAJ は 1993 年 11 月に発足し、4 つの使命（技術力、生計向上、地域開発、環境保全）のもとミャンマーとベトナムにおいて活動をしている。インフラ系の活動としてこれまで井戸（500 本）、学校（300 校）、職業訓練を国連などの資金も活用しながら実施している。
- ラカイン州では 17 郡の内 3 郡（マウンドー、ウチィドン、ラティドン）で活動。ラカイン州では 2012 年に暴動があって、国内難民が発生した。2017 年にテロ事件があり国軍が過剰に掃討作戦を行ったことから 70 万人の難民が発生した。
- 民俗を越えた融和の場の共有を念頭に、仕事，学びの場として小規模インフラ（橋）の建設を 200 以上実施した。
- 2022 年 9 月現在の活動は UNHCR 資金による車両等機材整備事業、メインテナンス事業の他 BAJ 独自事業として、女性の裁縫教室を運営している。
- NGO を巡る状況は、国際 NGO の登録手続きが中止、MOU の困難、締め付けの強化、治安悪化による中断のリスクに直面している。教育省は MOU について極めてリラクタントである。
- アラカン軍と国軍の戦闘が 2021 年 11 月以降、再開し 2022 年 7 月にマウンドウとシットウェ間の道路が閉鎖され、物流もストップしている。

質疑

Q：NGO 登録や MOU なしに活動して大丈夫なのか
A：過去の実績、信頼で活動出来ている（刺されないよう警戒しながらやっている）

Aung Din さんと　ニューヨークで再会！

11 月 14 日、藤村会長がニューヨークを 7 年振りに訪問し、2019 年から在住の Aung Din さんご夫妻と 3 年振りに再会しました。

Aung Din さんと奥様の May Khin さんは、現在 Long Island 島の東側に、長女の美知子さん夫婦、次女の紀子さん夫婦と孫の 7 人一緒に、下の同じ家に住んでいるとのことです。

Aung Din さんは、アメリカでの仕事はせずに、専ら政治的混乱によって避難したミャンマーの人達や窮乏した人達を支援する活動に参加しているとのこと。奥様は、次女の紀子さんのお孫さんのお世話をしているとのこと。今はいつ帰国できるかわからないが、ミャンマーの政治的安定と平和が達成された時に帰りたいと言っていました。

バガンに住んでいる Ye Htu さんもガイドの仕事がなくなってしまったので、奥さんの実家があるシャン州のラシオの方に引っ越すそうです。バガンの村人達も観光客が来ないので、仕事がなくて、ギャンブルに耽っているとのことで、荒廃しつつあるようです。

MJET の皆さんと早くお会いしたいので、もしニューヨークに来られる機会があれば、ご連絡してくださいとのお言付けがありました。

MJET はポパ山地域に「Flower Park」を作り、そこにエコツーリズムを実践しようと考えているので、一緒に準備をして行こうと、激励しました。健康な若さを保ち、人生を有意義に過ごすためには、「夢」に向かって、日々、少しずつ努力することが秘訣です。これからも、ポパ山地域で「Flower Park」を設立するための準備を一緒に続けたいと思います。

mjet
ミンガラバーMJET News Letter
13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com

「Flower Park」設立準備のための軽井沢地域の調査

将来計画である、ポパ山地域に設立する「Flower Park」の構想立案に役立てるため、昨年から国内のエコツーリズムの状況を調査しています。今回は、軽井沢地域の 4 つの施設を視察調査しました。調査結果の概略を報告します。

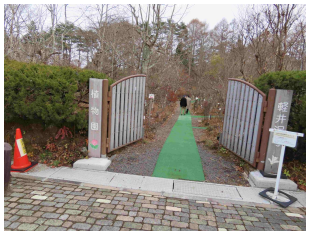
日時：11 月 17～19 日
場所：軽井沢地域
参加者：藤村建夫、神田道男、松岡和久

1．塩沢湖タリアセン（17 日 11 時～14 時 30 分）

・塩沢湖タリアセンは、「湖畔に広がる自然と文化とミュージアム」を売りに、塩沢湖の周りに、庭園（イングリッシュローズガーデン）遊戯施設（テニスコート、アーチェリー、ボート）文化施設（軽井沢高原文庫、仏の画家「ペイネ美術館」（仏の画家）、深沢紅子の「野の花美術館」）、建築物（朝吹山荘、旧軽井沢郵便局、他）、花壇（イングリッシュガーデン）レストラン等がある。入園料 1600 円

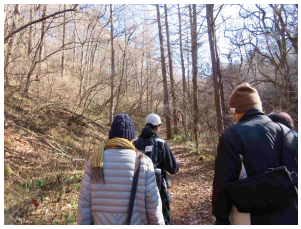
2．軽井沢植物園（17 日 14 時 30 分～16 時 00 分）

・1960 年頃から生活様式の変化により、放牧地の草刈り場であった湿原や草原は森林化が進んだ。特に南軽井沢では、ゴルフ場建設により浅い池や沼が減り、アヤメ、アサマキスゲ、マンセンカラマツ、エゾカズラ、ナデシコ、オミナエシ、キキョウの草花も見ることが少なくなった。軽井沢に成育する希少な植物を後世に伝えるため、調査研究の成果を原動力として、生涯教育や学校教育の支援、社会的貢献活動を目指して、1975 年に軽井沢町植物園が設立された。
・町立の植物園は、植物園、自然園、展示館から構成され、面積は約 20,000 ㎡である。丘陵部と池を含む湿地帯からなり、浅間山周辺の地元の草花、樹木を中心に約 145 科、1600 種の樹木、草花が標本展示されている。
・風越山の南麓の旧国際射撃場の跡地は、半自然草原状態で湿原や草原に生える希少植物が残されている。植物園により管理されており、遊歩道を歩いて草原を観察できるようになっている。



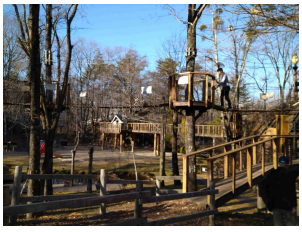
3．（株）ピッキオによる野鳥の森ツアー（18 日 9 時 30 分～12 時）

・ピッキオの野鳥の森ネイチャーツアーは、この環境省の管理する森を活用して、一日 2 回 2 時間のツアー（定員最大 20 名）を専門のガイドが案内する形式で 1992 年から実施している。
・ツアーは事前申し込みが必要。案内料は 2500 円/人である。
・ピッキオとはイタリア語でキツツキのことの由。
・9 月に夏鳥が南に去り、11 月には冬鳥が越冬のため渡来するが、今年は暖かいせいか、まだ見ることが出来ないとのことであった。
・今回、観察できた鳥は、ヒヨドリ、シジュウカラ、アカゲラ、などであった。また、キツツキの開けた穴の解説、鳥の巣は孵化と子育てにのみ使われ、子育てが終われば廃棄されるなどの解説があった。動物に関しては、リスやザトウムシを見ることが出来た。また、けものみちに仕掛けたカメラで映ったサル、イノシシ、タヌキ、カモシカ、ツキノワグマの紹介があり、動物保護区で禁猟のため種々の動物がいることが分った。



4．軽井沢おもちゃの王国（14 時 00～15 時 30 分）

・浅間山北麓にあり、北軽井沢と呼ばれる群馬県嬬恋村に所在する。小学生以下の子供を主要ターゲットとした施設と言える。
・おもちゃの王国は遊具を使った施設と自然を生かした「わくわく自然の森」（一種のアスレッチック施設）に大別されている。来園者を楽しませる施設として「わくわく自然の森」は参考になると思われる。
・遊具は、野外のもの（観覧車、ゴーカートコース、空中自転車等）と室内（レゴハウス、トミカハウス等）があり、レゴやトミカはメーカーと協力していると思われ、お土産とも連動している。
・アスレチックはつり橋や木の上の家、岩山などを一筆書き状につなぐ回遊路を移動するものと渓流を利用した魚（ニジマス）釣り等に分かれている。



（神田記）